

課題解決型授業（アクティブ・ラーニング）に関する調査研究プロジェクト
平成27年 第1回 推進地域連携会議

日時 平成27年6月23日（火）13:30～16:00

会場 旭川市立朝日小学校 図書室

【協議】

アクティブ・ラーニングとは

- 「アクティブ・ラーニング」はまだ確立していない。ただ「知識を身に付ける」「学び方を学ぶ」「学ぼうとする意欲を高める」という要素を外すことなく、バランスよく身に付ける学習法である。
- アクティブ・ラーニングは問題解決の手法を学ぶことである。集団での学びの中でも一人ひとりに役割があり、集団構成人数に配慮する必要がある。調べたいときにすぐ調べられる環境が大事である。
- 大きな課題を解決すると、個の課題も解決するような学習を行う。
- “協働”＝交流ではない。話し合い活動を入れればよいというものではない。
- 本時の目標を達成させるための一つの方法である。
- 活動、体験をさせることが目的ではなく、「思考が働いている、思考が活性化している」学習がアクティブ・ラーニングである。
- 今までの問題解決学習・課題解決学習をより一層充実させていくための「アクティブ・ラーニング」である。それには2つの観点がある。①思考の活性化 ②協働で学ぶよさに気付かせる。集団で学ぶことの楽しさを味わわせる。～学び方を学ぶ

小学校で求められているアクティブ・ラーニングとは

- 基礎・基本を身に付けていく際にALをどう取り入れていくか。
- 将来社会人としての姿（みんなと協力して働く姿）を目指しながら、みんなで学ぶ楽しさ、よさを味わわせるような授業展開が必要なのでは。

指導の方法の工夫～学習コーディネートとしての教師の役割～

- 個々が調べたこと、考えたことはパラレルなので、教師がつなげたり、新たな提示、質問で関係づけたりしていくことが教師のコーディネートとしての役割ではないか。
- 授業のスタートを子どもの『問い』（こうしたい、知りたい・・・）という思いで始められるように働きかけをすることも教師としての役割である。
- 学習コーディネートは子どもたちが乗るステージを作ったり、準備したりし、それぞれの発達段階に応じたステージに上げる方法を吟味していく役割を担う。
- 学習コーディネートは『『子どもが考えるよりどころ』を考える』ことで、「教える」「考えさせる」のバランスをとっていく。
- 子どもの問いにすぐ答えるのではなく、「こうやって調べたらいいよね。」「この人に聞いてみたら？」とアドバイスすることがコーディネートとしての役割である。
- 子どもに「手順」「時間の目安」「学習の目標を示す」ことが教師の役割として大事である。
- 学力差がある中でALを取り入れると効果的である。
- 教科によってALの取り組みやすさがある。

評価の在り方

○児童の振り返り～自己評価 「どこまでわかったか、わからなかったか」
自分のよさに気付かせる。

(手立て)

- 一枚の紙に毎時の評価を書いていく、授業が進みながら自分の成長を感じることができる。自分の変化に気付ける。
- 授業の初めを評価に役立てる。今日の目標を達成できそうか、できそうか問う。(できる、できそう、わからない～挙手) そうすることで、授業に対しての心構えができ、授業後の変容にもつながる。

相互評価 • 授業途中での友達からの評価は意欲付けにもつながる。

○児童が「できる、できない」ではなく、1時間のプロセス(話す・書く)を評価していく。

◆笠井先生 資料あり

○言葉の精査が必要

• 「協働」－「協同」 文科「協働」 道「協同」

協同 cooperation learning

協働 collaboration learning

• 「Active Learning」－「Action Learning」

Active Learning 能動的

Action Learning 質問会議・学習して
いく組織

• 「コーディネーター」－「ファシリテーター」

コーディネーター 調整者

ファシリテーター 促進者

○授業者の意識改革

- 今まで13コマ指導→今は6コマ指導+7コマ学生主体の調査、活動
- 指導時間は短くなるが、思考を活性化させることで今までより身に付く。
- 1単位時間の中でどのくらいコンパクトになるか→1単位時間の指導過程を一般化